



JOC GOAL&ACTION FOR TOKYO 2020 Post-Games Review

第32回オリンピック競技大会（東京2020）を通じてJOCが果たすべき3つの役割と目標達成に向けた戦略 レビュー

2021年11月

公益財団法人日本オリンピック委員会

JOC GOAL&ACTION FOR TOKYO 2020

Post-Games Review 目次

1. JOC GOAL&ACTION FOR TOKYO 2020とは
2. 全体総括
3. これからのJOC
4. TEAM JAPANブランド
5. JOC'S ROLE 1：アスリートの育成・支援
6. JOC'S ROLE 2：オリンピズムの普及、推進
7. JOC'S ROLE 3：国際総合大会の派遣・招致、国際化の推進
8. 補足資料

JOC GOAL&ACTION FOR TOKYO 2020とは

オリンピックを通じて、
オリンピックのチカラを、もっと人へ、社会へ

全ての人々にスポーツへの参加を促し
健全な精神と肉體を持つ人間を育て
オリンピック・ムーブメントを力強く推進する
これを通じて、人類が共に栄え、文化を高め
世界平和の火を永遠に灯し続ける
これこそ JOC の理想であり、使命である。

JOC GOAL&ACTION FOR TOKYO 2020

第32回オリンピック競技大会
(東京2020)を通じて
JOCが果たすべき3つの役割と
目標達成に向けた戦略



メダル獲得だけではないオリンピックの価値を可視化するために、「**東京2020大会を通じてJOCが達成すべき目標**」を設定した（[参照：ホームページ掲載資料](#)）。

コロナ禍による大会延期を経て、アスリートの活躍を通じ、どのように**社会にポジティブな影響**を与えられるかがより一層重要となった。

大会を通し、**目標・施策の8割を「達成」あるいは「概ね達成**」した。残り2割はコロナ禍により実施が困難になった施策や、継続中の施策が該当し、「**進行中**」とした。

全体総括

8割

110万→300+万人

46.1→57.5%

41.7→53.3%

GOAL&ACTIONを「達成」「概ね達成」

無観客開催の中SNSで国民とつながる

オリンピックに関心がある人の割合が向上

コロナ禍でアスリートの姿に希望を見出す

※ 2021年6月、2021年9月JOC実施調査で「東京2020大会に関心がある」と回答した人の割合

※ 2021年6月、2021年9月JOC実施調査で「アスリートの姿がコロナ禍の社会に希望をもたらしてくれる」と回答した人の割合

東京2020大会を通してアスリートが示してくれたスポーツの価値を守ることはもちろん、時代にあった新しい価値を創り、社会に伝えていくため、GOAL&ACTIONの検証結果を踏まえ、JOCは活動をより具現化していく。

大会のテーマの一つであった「多様性と調和」についても継承していくため、組織委員会からの呼びかけに応じ、東京2020 D&I JOCアクション宣言を公表した。

これからのJOC

JOC Vision 2064

スポーツの価値を守り、創り、伝える

Visionに基づく活動指針

中期計画2022-2024柱立て

・オリンピズムが浸透している社会の実現

オリンピズムを誰もが当たり前のように理解し、スポーツを通して豊かに生きる喜びが浸透している社会をつくる。

・憧れられるアスリートの育成

高い競技力と人間力を活かし、充実した人生を歩む、憧れの存在となるアスリートを育てる。

・スポーツで社会課題の解決に貢献

日本スポーツ界だけではなく、国際社会が抱えるあらゆる課題をスポーツの力で解決に導く。

オリンピックの
価値発信

アスリートの
育成・支援

国際交流の
推進

JOC組織力・
基盤強化

NF連携・支援

TEAM JAPANブランド

JOC Vision 2064に基づく活動を加速させるため「TEAM JAPANブランド」を構築した。

TEAM JAPANについて

オリンピック日本代表選手団や、世界で日本の代表として戦う選手やそのチームで構成されるTEAM JAPANは、スポーツに関わるすべてのステークホルダーの中心的存在となり、ひとつのコミュニティとして束ねる役割を担っています。

TEAM JAPANブランドについて

TEAM JAPANを中心に、スポーツが社会にポジティブな影響を生み出す活動をさらに加速・拡大させていきます。

TEAM JAPANブランドの使命

日本代表選手の「最高のパフォーマンス」がもたらす勇気や感動、希望を世界中の人々と共有しながら、スポーツを通じて心をつなぎ、スポーツの本質的な価値を広く発信していきます。

TEAM JAPANブランドの目指すゴール

TEAM JAPANとすべての人の想いをつなぎ、その輪を広げることで、人々が一步踏み出す力となり、より良い社会づくりに貢献していきます。

JOC'S ROLE 1 : アスリートの育成・支援

アスリートの活躍【競技成績】

- メダル獲得は最終目標ではなく、目標に向かって努力を重ねたことが評価されるべきであると考えてきた。
- コロナ禍による制約にも関わらず、選手、指導者やスタッフの努力によりコロナ前に掲げた目標の達成に限りなく近い成績を残せた。史上最高となる金メダル数(27)、メダル総数(58)、入賞総数(参加258種目中136)を達成した。
- JOCエリートアカデミー修了生10名が出場し、金3個を含む5個のメダルを獲得、9名が入賞し、アカデミー設立から12年の成果が結実した。



コロナ禍での大会【感染症対策】

- スポーツ庁や日本スポーツ振興センター(JSC)と連携し、感染症対策や大会直前及び期間中の各種サポートに関する費用への助成を実現し、コロナ禍の中での強化活動推進を後押しした。
- 事前期のハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)と連携した防疫対策、検査体制、国際オリンピック委員会(IOC)提供によるワクチン接種対応、大会本番時のコロナ対策責任者(CLO)対応等を通じて対策の徹底と環境サポートを図り、日本代表選手団から陽性者を出すことなく大会を終了した。



JOC'S ROLE 1 : アスリートの育成・支援

憧れられるアスリート【インテグリティ】【アスリートによる発信】

- アスリートはメダル獲得以外にも様々な感動を伝えてくれた。
- 岩渕真奈選手（サッカー女子）が呼び掛けた企画「#arigato2020」では、オリンピック開催に関わってくださった全ての方に东道国の国内オリンピック委員会(NOC)代表選手として感謝のメッセージを伝えたいという提案に、約230のアスリート、関係者が賛同し、それぞれの言葉でSNS上で発信してくれた。
- 各種インテグリティ教育研修や啓発活動を積み重ね、ドーピング違反ゼロ、不祥事ゼロで大会を終えることができた。



iwabuchi.m.jp TOKYO2020
With my gratitude 感謝

Dear olympians 🇯🇵
Thank you for making great tournaments and being together for preventing from COVID-19.
Japan is beautiful country because there are so many beautiful places and we have Wonderful cultures which can only be felt in Japan. Please come again when COVID-19 is over. I hope everything will be all right in our future!! See you again in Japan 🇯🇵❤️

ホランダ関係者の皆さん🇯🇵
ホテルでの皆さんの優しさ、選手村での皆さんの笑顔や、練習会場試合会場での明るさや熱に沢山の元気とパワーをいただきました。そして日本開催だからこそ、とんでもなく美味いご飯も私達のパワーの源になりました。いろんな刺激がある中ではありますが、皆さんにとって19日朝のオリンピックが素晴らしい大会だったと思えてもらえたら、そこに参加させていただいた一選手として本当に嬉しいです!!このような状況の中、大会のための準備、また素晴らしい物を大会中も作っていただき本当にありがとうございました。

この他にも書ききれないくらい皆さんの支えや我慢、努力があったからこそ、コロナ禍の中、素晴らしい舞台で私達アスリートが全力を尽くせたと思っています。

今日開幕する19日朝の東京オリンピック、戦うのも、テレビを通して応援するのも本当に最高の楽しかったです。

オリンピックに呼んでくれた全ての皆さんへ
ありがとうございました。

8月24日から開幕のパラリンピックも素晴らしい大会になる事を願っています🌟🌟🌟

#arigato2020 #tokyo2020

パラリンピックとの一体感【オリパラ一体】

- 日本代表選手団の公式服装、オフィシャルスポーツウェアをオリパラで統一した。
- 大会期間中にパラリンピックの関係者からオリンピックの選手に激励メッセージをもらったり、逆にオリンピックの選手からパラリンピックの選手に激励メッセージを発信したりする取り組みがなされていた。
- 大会直前期及び期間中のナショナルトレーニングセンター(NTC)利用がスムーズに行われ、オリパラ共に競技成果を残せた。
- 大会後には、従来のメダリストパレードに代わり、オリパラメダリストが集うオンラインイベント「応援ありがとうTOKYO2020」を実施した。



JOC'S ROLE 2 : オリンピズムの普及、推進

オリンピックの価値【オリンピックへの関心】【パートナー企業との連携】

- スポーツは競いあい高めあう相手がいることで価値が高まることを再認識させられる大会となった。
- アスリートが目標に向かって努力し、そして競技後には健闘を称え合い交流する姿はオリンピズムの本質であり、多くの人々の心に届いた。東京2020大会に関心のある人の割合は、大会前後で10ポイント以上上昇した（2021年6月46.1% → 2021年9月57.5%）。
- 競技や身体能力としての魅力はもちろん、アスリートの人間的な部分にもフォーカスし、多くの方に情報を発信した。大会延期を乗り越え、苦勞してたどり着いた境地で発するアスリートの言葉は、スポーツ界に限らず、社会全体にとって大きなヒントになったと考える。
- パートナー企業との連携や、流通を巻き込むことで、選手団を応援する一体感やオリンピズムを体感する機会を最大限創出でき、パートナーによるアクティベーションの効果もあり、選手団応援の機運醸成にもつながった。



発信力強化【広報強化】【企画・コンテンツ】

- 無観客となった今大会で、国民の皆さんとつながりメッセージを伝えるため、SNSでの発信を強化した。
- 2021年6月時点で110万だったJOC公式SNSの総フォロワー数は、大会終了時点で300万以上となった。大会後の施策も含めて応募総数27.9万のファンIDを獲得することができた。
- 子どもたちとメダリストをつなぐオンラインインタビューを実施した。テレビでその活躍を見たアスリートと直接やりとりできる機会を提供できたことは、未来を担う世代に対し、オリンピックが残せるひとつの形を示せたと考える。



JOC'S ROLE 3 : 国際総合大会の派遣・招致、国際化の推進

国際交流の推進【ジャパンハウス】

- コロナ禍での開催であり、諸外国の関係者との交流は極めて限定的にならざるを得なかったが、日本オリンピックミュージアムを活用してジャパンハウスを設置した。
- ホストNOCとしてオリンピックファミリーや関係者をオンラインでつなぎ、交流を図るオンラインのイベントを開催し、「復興と東京2020オリンピック」をテーマに和太鼓やYOSAKOIソーラン演舞等、日本の文化にも触れていただく機会を提供した。



プレゼンス向上【ポスト獲得・維持】

- IOCアスリート委員選挙において、太田雄貴氏が当選を果たした。日本はもちろん、世界中のアスリートの代表として、スポーツの価値を高め、どのようにスポーツを通じてよりよい社会を作っていくことができるかを考えてくれることを期待し、JOCとしても最大限のサポートを行っていく。
- これまでは東京2020大会を基軸に支援や協力を全面に押し出し国際交流を展開してきたが、今後JOCが他国と交流するにあたり、何を基軸とするか戦略の構築が必要となる。



補足資料

JOC'S ROLE 1 : アスリートの育成・支援

GOAL	ACTION	結果	達成
<p>アスリートファーストを徹底し、安心してトレーニングに専念できる環境を整備します。 それにより、金メダル30個獲得、及び全競技での上位入賞を目指します。</p>	<p>国内競技団体(NF)をはじめ、スポーツ関係団体との連携の強化</p>	<p>【競技成績】 メダル総数58（金27、銀14、銅17）、入賞総数136／参加258種目 ※史上最高となる金メダル数、メダル総数、入賞総数 ※メダル総数のうち42がHSPC利用競技 ※競技別NTC利用競技でメダル獲得2、入賞10</p>	概ね達成
		<p>【感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「感染症対策事業」と「新しい生活様式での選手強化活動事業」の新設 ・IOC提供により約3,000回のワクチン接種実施 ・日本代表選手団から大会中の陽性者ゼロ 	達成
		<p>【アントラージュ教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアアスリートの保護者向け研修を3回実施、延べ200名超が参加 	達成
		<p>【NTC競技別強化拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NF満足度調査を2021年度末に実施予定 	進行中
		<p>【夏冬一体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北京2022大会選手団候補の研修で東京2020大会メダリスト4名による講話・情報共有を実施 ・冬季競技のNTC利用率は2021年度末に調査予定 	進行中
	<p>【ガバナンスコード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度ガバナンスコード（中央競技団体向け）適合性審査28団体のうち不適合団体無し ・JOC加盟全66団体が自己説明を公表（一般スポーツ団体向けが適用される日本スポーツ芸術協会を除く） 	達成	
	<p>NFのガバナンス強化</p>		

JOC'S ROLE 1 : アスリートの育成・支援

GOAL	ACTION	結果	達成
人間力の高いアスリート・指導者を育成し、スポーツの価値を高めます。	アスリート、指導者への社会的責任の自覚形成と教育・研修の徹底	【インテグリティ】 ・ドーピング検査違反、選手団行動規範・感染症対策プレイブック違反0件 ・憧れのアスリートがいる人の割合：大会前46.9%→大会後51.8% ・コロナ禍でアスリートの姿に希望を見出す人の割合：大会前：41.7%→53.3%	達成
		【アスリートによる発信】 ・東京2020組織委員会、JPC、JOC 3 団体合同アスリート委員会の取組「#アスリートがつなぐ」を実施 ・サッカー女子岩渕真奈選手の発案で、選手達が自身のSNS等で感謝のメッセージを発信する 「#arigato2020」を実施、約230のアスリート、関係者が参加 ・シンボルアスリートブースをファンゾーンに設置、総来場者数6,155名、オンライン番組視聴数約64万人 ・シンボルアスリートのJOC事業協力回数：2019年2.9回、2020年2.4回→2021年9.4回（9月末時点）	達成
		【指導者育成】 ・選手団役員（ドクター、トレーナー等を含む）に占めるNCA修了者の割合：リオ2016大会24.4%→東京2020大会24.8% ※「監督」では57.3%、「コーチ」では34.2%	達成
	キャリア教育、アスナビの充実・発展	【アスリートの雇用状況】 ・アスナビ説明会からの就職0件、NF紹介による就職6件	進行中
パラリンピックとの連携促進を通じた一体感の醸成により、スポーツの価値の向上を目指します。	日本パラリンピック委員会(JPC)とナショナルトレーニングセンター(NTC)の共同利用や、イベント等を通じた連携と、一体感の醸成	【オリパラ一体】 ・オリパラ一体感を感じる人の割合：大会前33.0%→大会後38.6% ・公式服装、オフィシャルスポーツウェアの統一 ・パラリンピック日本代表選手団結団式にて、オリンピック金メダリストが激励のメッセージを発信 ・メダリストパレードに代わり、オリンピックコンサートにあわせオンラインイベント「応援ありがとう TOKYO2020」を実施	概ね達成

JOC'S ROLE 2 : オリンピズムの普及、推進

GOAL	ACTION	結果	達成
オリンピックへの関心を高め、そして大きな感動を提供します。	日本代表選手団、メディア露出の増加、NFと連携した広報強化	【オリンピックへの関心】 ・東京2020大会への関心：大会前46.1%→大会後57.5% ・夏季大会への関心：大会前52.8%→大会後59.2% ・冬季大会への関心：大会前44.8%→大会後49.9%	達成
		【広報強化】 ・JOC公式SNS総フォロワー数：大会前111万人→大会後309万人 ・Twitterのエンゲージメント数は対リオ2016大会比7倍、対平昌2018大会比5倍 ・20万人以上のファンIDを獲得 ・マリナーズコートでのメダリスト会見を計32回実施、全メダリストが登壇 ・メダリストと子供たちを中心としたオンラインインタビューを実施（延べ参加人数：メダリスト26名、子供86名）	達成
		【日本代表選手団】 ・認知度：大会前57.3%→大会後55.5%	進行中
スポーツ及びオリンピックがもたらす社会的・教育的な意義を発信します。	教育機関などの関係機関との連携	【オリンピズムの浸透】 ・オリンピズムへの共感：大会前45.7%→大会後49.9% ・オリンピズムの言葉の認知：大会前29.8%→大会後31.5% ・オリンピズムの意味の認知：大会前25.7%→大会後26.3%	達成
		【スポーツへの関心・好意】 ・スポーツに関心のある人の割合：大会前58.6%→大会後60.2% ・スポーツにポジティブな印象を持つ人の割合：大会前56.5%→大会後58.0%	達成

JOC'S ROLE 2 : オリンピズムの普及、推進

GOAL	ACTION	結果	達成
メダルの獲得だけでなくスポーツの魅力や、多種多様な競技への理解を促進します。	オリンピック、指導者等の、オリンピックについての理解と積極的発信の促進	【オリンピックとの交流】 ・日本スポーツ協会(JSPO)との連携による日独少年団とオリンピックの交流、オリンピックの被災地訪問はコロナ禍により中止	進行中
		【関心のある競技】 ・関心のある人が30%を超える競技：大会前7種目→大会後9種目（競泳、サッカー、体操、野球、陸上、スキー・ジャンプ、フィギュアスケート→大会後に柔道、卓球が増加）	概ね達成
日本オリンピックミュージアム(JOM)の、オリンピック・ムーブメント発信拠点としての地位を確立します。	JOMの魅力を高める企画・コンテンツ作り	【企画・コンテンツ】 ・感染症を乗り越えて開催したアントワープ1920大会企画展のバーチャル開催、WEBアクセス数前年比3倍増 ・日本代表選手団の結団式・壮行会をJOMで実施 ・パートナー企業・NFやオリンピック、近隣学校との連携はコロナ禍により未実施	概ね達成
		【大会レガシーの継承】 ・東京2020大会資産継承に関する契約を締結、アーカイブ組織であるJOCを中心にした国内体制で、資産受け入れに向けて準備中	進行中
東京2020以降もオリンピックへの支援を維持・向上させるための施策を構築します。	パートナー都市やパートナー企業と連携したオリンピック事業の拡大	【パートナー都市との連携】 ・シティドレッシング用のストリートバナーフラッグを作成、富士吉田市で活用 ・新規締結予定1都市、締結希望1都市	概ね達成
		【パートナー企業との連携】 ・選手団オフィシャルスポーツウェア「JAPAN OLYMPIC TEAM 2020」のイメージに統一したコミュニケーションを展開（選手団ウェアの認知度：大会前25.0%→大会後60.2%） ・コンビニエンスストア、東京2020オフィシャルストアでのJOCライセンス商品販売等のパートナーアクティベーションを実施。約14,000店舗にて販売。 ・NFから支援者に贈呈できる日本代表選手団記念品を作成し、20NFが活用 ・大会終了後にパートナー企業へメッセージVTRの送付、御礼訪問等を実施	達成

JOC'S ROLE 3 : 国際総合大会の派遣・招致、国際化の推進

GOAL	ACTION	結果	達成
国際総合競技大会に参加する意義、そしてスポーツを通じた国際貢献の重要性の理解を目指します。	組織委員会、IOC、NF、IFなどの関係機関との連携強化	【NOCとの連携】 ・大会期間中に1NOCとパートナーシップ協定を締結、パートナーNOCは計50に	達成
		【NFとの連携】 ・IF会議等への渡航費、滞在費のNF支援を4件実施 ※当初84件予定もコロナ禍によりその他の会議はオンライン化	概ね達成
	国際人材の育成	【ポスト獲得・維持】 ・日本人IF理事就任数：大会前27NFから30IF理事→大会後28NFから31IF理事 ・IOCアスリート委員選挙に日本人候補が初当選（太田雄貴氏）、IOC委員就任	概ね達成
各国・地域のオリンピック委員会(NOC)との関係強化により、国際スポーツ界におけるプレゼンス向上を図ります。	国際人材の育成	【国際人養成アカデミー】 ・修了者64名がIF/AFのポジション（理事、事務総長、委員会委員）に就任（うち8名は2019～2020年度に新規就任） ・東京2020大会の国際技術役員ITO、スポーツマネージャーとして活躍した修了者多数	達成
	日本人選手と外国人選手の交流や、他団体と協働した国際貢献事業の理解促進	【国際貢献事業】 ・IOC/オリンピック・ソリダリティプログラムによる長期受入選手13名が2021年8月まで日本でのトレーニングを継続し、うち11名が東京2020大会へ出場（プログラム中途終了者3名含む） ・上記のうち7名が、パリ2024大会出場へ向けて日本でのトレーニングを継続予定 ・短期受入、指導者派遣、JSC-JOC-NF連携招へいは、コロナ禍により実施できず ・2020年7月に国際協力機構(JICA)と「国際貢献及び国際協力の推進に関する連携協定」を締結	概ね達成
	海外選手団の事前合宿を受け入れた自治体でのオリンピック・ムーブメント活動促進	【IOC難民選手団】 ・早稲田大学で難民選手団27名の事前合宿を実施	達成
	ジャパンハウス等を通じた日本の魅力発信等	【事前合宿受け入れ自治体】 ・11NOCと自治体等のMOU締結を仲介、自治体等との連絡協議会を3回実施（OMイベントへの関心喚起）	概ね達成
2030オリンピック冬季競技大会に向けた機運を醸成します。	ジャパンハウス等を通じた日本の魅力発信等	【ジャパンハウス】 ・総来館者数1,435名（IOC28名、NOC48名、IF13名、パートナー390名、東京2020組織委員会115名、自治体・政府169名、NF232名、JOC 95名、その他345名） ・日本オリンピックミュージアム（JOM）を活用しジャパンハウスを設置、飲食の提供や交流が制限された中で感染症対策を講じてハウス運営 ・「復興と東京2020オリンピック」をテーマにオンライン交流イベントを開催、265名参加	概ね達成
		【大会後の評価】 ・東京2020大会における「傑出した(Outstanding) NOC」として、JOCが国内オリンピック委員会連合(ANOC)から表彰された ・東京2020大会に参加したIOC、NOCから大会開催への感謝を述べられた ・IOCバツハ会長「このオリンピックの後、日本人は世界中の人から賞賛を受けるだろう。青写真もロールモデルもない中、大会を実施し歴史を作った」 ・アメリカ/ルーマニア各NOCとの会談時に、東京2020開催に関する謝意の表明があった 等 ・今後のオリンピック等招致に賛成する人の割合：大会前32.5%→大会後47.9%	概ね達成



THANK YOU.